

《原子力災害発生に備えた発電所復旧支援訓練を行いました》

当社は、10月11日、12日の両日、大規模な原子力災害を想定した発電所復旧支援訓練を実施しました。当日は、当社および協力企業ならびに災害時の相互協力に関する協定を締結している東京電力ホールディングス(株)、日本原燃(株)が参加。災害対策支援拠点※の設営ならびに運営手順などを確認し、災害発生時における対応力向上を図りました。

当社では、今後もさまざまな事態に対応する訓練を繰り返し実施してまいります。

※ 放射性物質が外部に放出されるような原子力災害発生時に、発電所の復旧支援にあたる作業員や車両の放射線管理、発電所との情報連絡、復旧に必要な物資の受入れなどを行う場所

主な訓練内容

災害対策支援拠点の設営

作業員の放射線量管理や除染、発電所と情報連絡をするための機器などを設置する災害対策支援拠点の設営を行いました。



放射性物質の付着状況の検査および除染※

設営した災害対策支援拠点で作業員および車両への放射性物質の付着状況を検査し、必要に応じて除染を行う手順などを確認しました。



※ 今回の訓練は、発電所の復旧支援を行う作業員の検査を想定したものです。万が一、UPZ地域の皆さまの一時移転が必要となった場合には、自治体が指定する「避難退域時検査場所」において放射性物質の付着状況の検査などが行われます。当社ではその場合にも、人員を派遣し運営に協力することとしています。

《「おながわ秋の収穫祭2023」に参加しました》

10月29日、「おながわ秋の収穫祭2023」が女川町海岸広場で開催され、当発電所員17名が運営スタッフとして参加しました。また、収穫祭をより一層盛り上げたいとの思いから、女川原子力発電所地域総合事務所において地域の皆さまと製作したフラワーアレンジ作品の展示や各種ワークショップを行う「女川原子力発電所プチ芸術祭」を開催しました。今後も所員一人ひとりが地域の一員として、地元の行事に積極的に参加してまいります。



炭火焼きのサンマを準備する当発電所員

多くの来場者で賑わう会場



地域の皆さまと製作した
フラワーアレンジ作品約120点を展示

発電所員が講師を務めた
木の実オーナメント製作のワークショップ

《女川原子力PRセンター「秋の収穫体験」を開催しました》

10月21日、22日の両日、女川原子力PRセンターにおいて「秋の収穫体験」を開催しました。イベントには、289名の皆さまが参加し、敷地内で大事に育てた「りんご、だいこん、さつまいも」の収穫を楽しんでいただきました。また、参加者には、PRセンター内で行われた「エネルギーに関するクイズラリー」を通じて、エネルギーに対する理解も深めていただきました。参加者からは「美味しそうな野菜が収穫できて楽しかった」「クイズラリーで、いろんな発電方法を組み合わせることの大切さが分かった」などの感想が寄せられました。



りんご、さつまいもを収穫する参加者



《第12回東北電力杯 女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会が開催されました》

10月11日、女川町第2多目的運動場において「第12回東北電力杯 女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会」(主催:女川町グラウンド・ゴルフ協会)が開催されました。当日は、女川町および石巻市牡鹿地区から78名の皆さまが参加し、心地よい秋晴れのもと、はつらつとプレーを楽しんでいただきました。



参加いただいた女川町・石巻市牡鹿地区の皆さま



プレーを楽しむ参加者

《女川原子力発電所2号機における特定重大事故等対処施設に係る「原子炉設置変更許可」をいただきました》

当社は、10月4日、原子力規制委員会から特定重大事故等対処施設^{※1}の設置に係る「原子炉設置変更許可」をいただきました。本施設は新規規制基準において、本体施設の工事計画認可から5年以内(2026年12月22日まで)に設置することが求められています。今後、準備が整い次第、設備の詳細設計に係る「設計及び工事計画認可^{※2}申請書」を原子力規制委員会に提出することとしております。

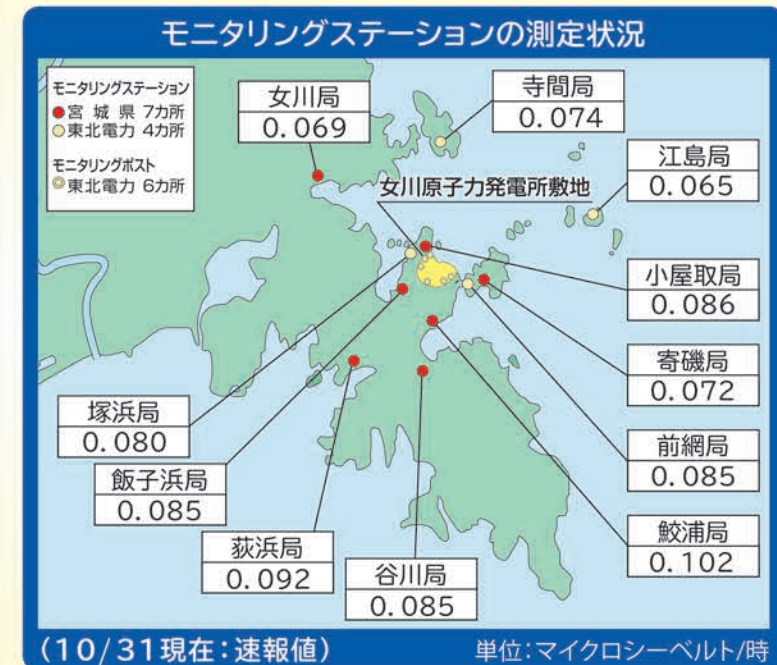
※1 原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突などのテロリズムにより、炉心に著しい損傷が発生するおそれがある場合などにおいて、原子炉格納容器の破損を防ぎ、放射性物質の放出を抑制するため、遠隔で原子炉圧力容器内の減圧や原子炉格納容器内の冷却などを行う施設

※2 施設の運用開始までに「設計及び工事計画認可」に加えて「保安規定変更認可」などが必要

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト^{※1}やモニタリングステーション^{※2}で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2023年10月31日の測定値は、最大で0.044マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値^{※3}

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	測定値 (マイクロシーベルト/時)
2011年 3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年 3月13日	1.8~21 ^{※4}
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年 4月 1日	0.063~0.098
2013年 4月 1日	0.055~0.076
2022年 4月 1日	0.033~0.045
2023年 4月 1日	0.034~0.046
2023年 10月 1日	0.034~0.057
2023年 10月 31日	0.034~0.044

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

